

# 農繁期 レポート

令和8年 4-5月号

## 栄ファーム

オーナー 栄運輸工業株式会社  
産地 鳥取県日野郡日南町  
水田面積 18.4アール  
保証量 玄米828kg  
形態品種 特別栽培コシヒカリ



### 生産者 三上 惇二さん

本年もオーナーになってくださり、誠にありがとうございます。  
3月のいつもより早い雪解けから作業は順調に始まりました。4月の田起こしから代掻き、田植えと大きなトラブルもなく無事に終わりました。時々山からの水が少なくなるような時もありましたが、適度な雨に恵まれ一番水を使う代掻きも順調に作業ができました。5月からは気温が一気に上がり、稲も順調に生育していますが、田んぼの中と外の雑草も同じく大きくなっていますので、ドローンで除草剤散布や草刈り機で草刈りをしています。

#### 4月～5月の作業内容

##### 1. 育苗

幼少期を集約的に管理して、均一に生育させることが目的です。育苗の初期である発芽から苗立ちの期間の管理が、その後の生育を大きく左右するため、最も重要な場面であるといえます。



育苗ハウスの作業の様子

##### 2. 荒起こし

トラクターで硬くなった土を砕き、空気や水を入れて柔らかくする作業です。土をほくすことで根張りがよくなり、微生物の働きも活発になります。また、次の代かき作業がしやすくなり、田植えの準備がスムーズに進みます



トラクターでの荒おこし

##### 3. 代かき

田起こし後の田んぼに水を張り、土を細かく砕いて均す作業です。苗がムラなく育ち、植え付けもしやすくなります。水漏れ防止や肥料・有機物の混和、雑草の抑制にも効果があります。昔は牛や馬に馬鍬を引かせており、古民家に牛舎跡が残ることもあります。



トラクターでの代かき

##### 4. 田植え

代掻き作業から数日後に行う作業です。昔は一族総出で行っていましたが、田植え機が発明され作業負担が軽減されました。田植え機にはガイドがあり、まっすぐきれいに植えることができます。稲の良好な生育をイメージしながら作業します。



田植え機を使った田植え